

小千谷市屋外体育施設整備方針

2022年3月策定

小千谷市

目 次

- 1 策定の背景と目的
- 2 施設の状況
 - (1) 屋外体育施設一覧
 - (2) 人口変動に対する利用者数の変化
 - (3) 近年の利用率の動向
- 3 用途別にみた課題
 - (1) 野球場
 - (2) 庭球場
 - (3) 多目的広場（グラウンド）
 - (4) 陸上競技場
 - (5) シャンツェ
 - (6) クロスカントリースキーコース
 - (7) グリーンヒル白山
- 4 施設整備方針

1 策定の背景と目的

2021年（令和3年）に東京で開催されたオリンピック・パラリンピックでの日本選手の活躍は、多くの人々に勇気と感動を与え、スポーツの持つ力を改めて実感したところです。一方で、近年のオリンピック・パラリンピックに見られるように、競技種目の多様化が進み、ニーズの変化に応じた環境整備など、スポーツ施設に求められる役割も大きくなっています。

本市では、スポーツ振興の発展を目指し、2018年（平成30年）に「小千谷市スポーツ推進計画」を策定するとともに、安全で誰もが利用しやすいスポーツ活動の場を提供するため、「小千谷市公共施設等総合管理計画」に基づきスポーツ施設の整備を進めてきました。

屋外体育施設は現在5施設を供用していますが、その多くは昭和50年代から60年代に整備した施設であり、年数の経過とともに老朽化が進み、維持費の増加が課題となっています。また、人口減少及び少子高齢化の進行に伴い、スポーツ団体及びその構成員の減少及び高齢化も進んでおり、施設の利用率が低下し、使用料収入の減少などにより従来と同様な施設の維持管理は困難になることが懸念されます。

これらの背景を踏まえ、屋外体育施設の全体の現状を整理し、施設の適正配置を進めるとともに効率的な管理運営を行うため、本方針を策定するものです。

2 施設の状況

(1) 屋外体育施設一覧

【図表1】

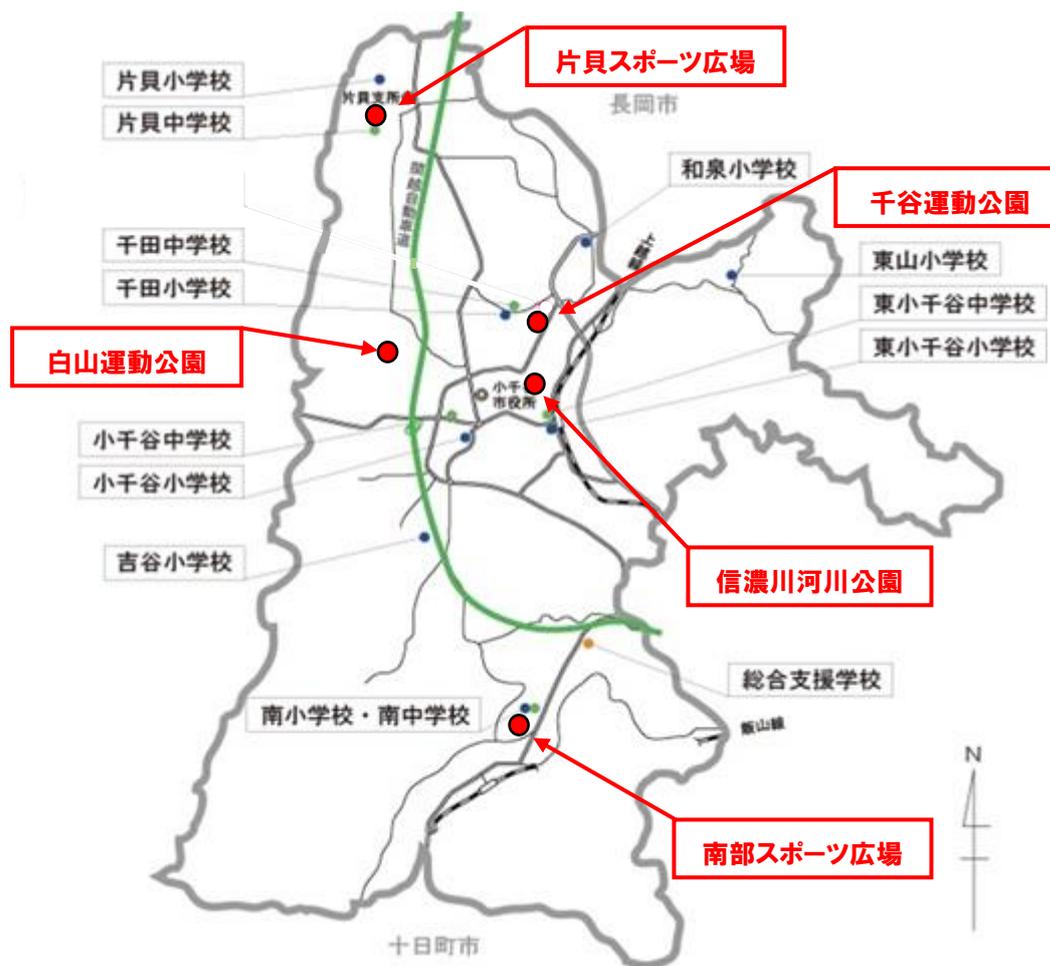
施設名	設置・運営主体	所在地	敷地面積(m ²)	代表建築年
【都市公園】3施設				
白山運動公園	小千谷市	山谷	407,000	1976 (S51)
信濃川河川公園	小千谷市	東栄	旧形態：56,891 新形態：54,117	旧形態：1980 (S55) 新形態：2012 (H24)
千谷運動公園	小千谷市	千谷	47,324	1986 (S61)
【スポーツ広場】2施設				
片貝スポーツ広場	小千谷市	片貝町	10,263	1979 (S54)
南部スポーツ広場	小千谷市	真人町	11,955	1980 (S55)
計 5施設				

※令和3年4月1日現在

※建築年が異なる建物が存在する場合は、主要な建物の建築年を表記

※信濃川河川公園は右岸堤防改修工事（平成20～23年度実施）の前後で形態が異なる。

【図表 2】



令和3年4月1日現在

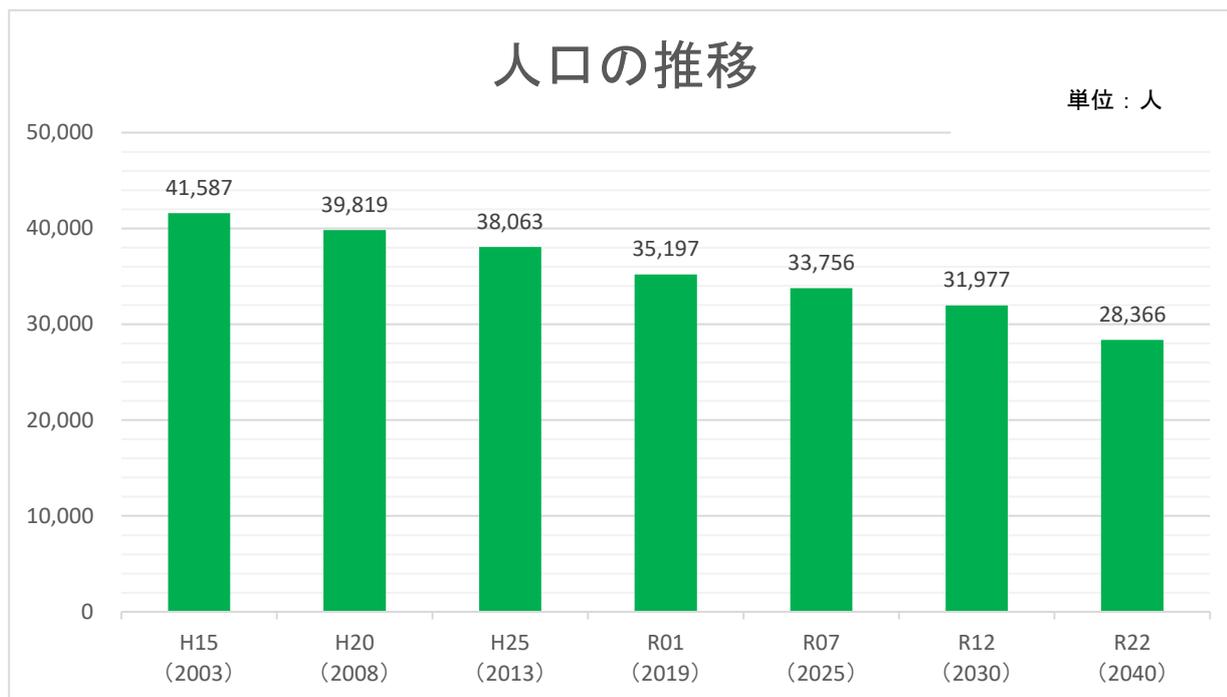
現在、屋外体育施設は5施設あり、小千谷中学校区、東小千谷中学校区、千田中学校区、南中学校区、片貝中学校区にそれぞれ1施設あります。各施設は、地域のスポーツ少年団や学校の部活動などでも利用されています。また、さまざまなイベントや行事などの会場のほか、災害時の避難場所やドクターヘリの離着場所として利用されています。

(2) 人口変動に対する利用者数の変化

本市の人口（図表3）は、平成15年では41,587人でしたが、令和元年には35,197人と6,390人減少しており、今後もこの傾向が続くと予測されています。

一方で、屋外体育施設の利用者数（図表4）については、平成15年の53,685人に対して令和元年は57,847人と増加していますが、降雪などの気象状況の影響により年度ごとにばらつきがあります。また、近年は、競技人口が減少している種目があり、施設利用率の低下が懸念されます。

【図表 3】



※人口（H15～R01）は、小千谷市統計書（市市民生活課「住民基本台帳」各12月31日現在）より。
 ※人口（R07～R22）は、人口ビジョン「国立社会保障・人口問題研究所推計」に基づく推計値。

【図表 4】

屋外体育施設の利用者数の推移

単位：人

施設名	H15	H20	H25	R1	R2
白山運動公園	34,197	34,441	41,331	36,045	24,313
信濃川河川公園	4,415	※ 0	5,112	3,898	1,684
千谷運動公園	9,151	7,309	13,586	9,422	5,938
片貝スポーツ広場	3,620	6,924	3,827	4,592	3,758
南部スポーツ広場	2,302	3,797	4,559	3,890	2,728
合計	53,685	52,471	68,415	57,847	38,421

※信濃川河川公園は右岸堤防改修工事（平成20～23年度実施）の前後で形態が異なる。
 ※信濃川河川公園は右岸堤防改修工事（平成20～23年度実施）期間中、利用実績無し。
 ※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用の停止や制限を行った。

(3) 近年の利用率の動向

利用率は、利用可能日数に対する実利用日数の割合で、利用者の施設に対する必要性を判断する指標です。

図表5は平成29年度から令和2年度まで4年間の屋外体育施設の利用率を表したもので、野球場、庭球場、多目的広場（グラウンド）において算出したものです。野球場においては、ナイター照明設備を設置する施設は利用率が高い傾向にあります。庭球場においては、白山運動公園の人工芝コートは市外の利用者が多く高い利用率を示していますが、同施設のハードコートは低いものとなっています。これらから、設備の有無や違いなどによって、利用者ニーズに隔たりがあることが表れています。また、競技人口が減少している種目では、今後さらに施設利用率が低下することが懸念されます。

【図表5】

屋外体育施設の利用率

単位：％

施設名	室場	H29	H30	R1	R2	平均
白山運動公園	野球場（照明有）	47.1	64.4	41.2	27.1	44.2
	庭球場（人工芝）	83.9	86.6	86.1	84.3	85.2
	庭球場（ハード）	28.7	27.7	29.0	27.1	28.2
	多目的広場	65.7	69.6	66.4	62.4	66.1
信濃川河川公園	野球場	34.0	28.3	29.7	20.6	28.6
	多目的グラウンド	75.9	39.4	49.2	49.5	53.1
千谷運動公園	野球場	36.3	39.0	39.3	43.5	39.2
	庭球場（クレー）	71.2	79.6	73.4	62.6	71.9
	多目的広場	29.4	27.3	28.0	20.7	26.5
片貝スポーツ広場	野球場（照明有）	70.3	75.4	73.5	69.3	72.2
南部スポーツ広場	野球場（照明有）	87.6	71.0	78.0	74.9	77.9

※利用率は実利用日数を利用可能日数で除した値。

※日あたり1回以上の使用で実利用日数に数え、保守日（点検、工事など）は利用可能日数から除外した。

※庭球場は施設別に1面以上の使用で対象とした。

※主な利用が専用使用以外の施設（陸上競技場、ジャンツェ、クロスカントリーコース）は実数不明により除外した。

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により利用の停止や制限を行った。

3 用途別にみた課題

(1) 野球場

設置場所	概要
白山運動公園	1面（両翼90m、中堅120m）、グラウンド舗装（内野：クレー、外野：芝生）、3800人収容、照明設備4基
信濃川河川公園	1面（両翼90m、中堅120m）、グラウンド舗装（内外野：クレー）
千谷運動公園	1面（両翼90m、中堅114m）、グラウンド舗装（内外野：クレー）
片貝スポーツ広場	1面（両翼86m、中堅108m）、グラウンド舗装（内外野：クレー）、照明設備4基
南部スポーツ広場	1面（両翼85m、中堅100m）、グラウンド舗装（内外野：クレー）、照明設備4基

野球場は5施設以外に白山運動公園多目的広場（2面）でも使用でき、他競技との比較で施設数は多い一方、競技者数は減少傾向であり、スポーツ少年団・自主スポーツ団体等の団体数も減少しています。また、いずれの施設も使用料収入は減少しており、有料利用の団体数減少による影響が考えられます。

さらに昭和50年代から60年代にかけて整備された施設が多く、供用開始から35年以上が経過し施設の老朽化が進んでいます。特に3施設に設置しているナイター照明設備は、全面的な設備更新に多額の費用が必要となる見込みです。

今後は、当市の人口推計や競技人口を含む利用者数の推計及び設備の更新費用などを総合的に判断し、施設の適正配置について検討する必要があります。

(2) 庭球場

設置場所	概要
白山運動公園	人工芝コート8面、ハードコート4面、クラブハウス、照明設備18基
千谷運動公園	クレーコート4面

庭球場は白山運動公園（3施設12面）と千谷運動公園（1施設4面）があり、利用者数及び使用料収入は増加傾向です。特に白山運動公園（人工芝コート）は、市外からの利用者も多く利用率も高い傾向にあります。

昭和50年代から60年代にかけて整備した施設は、供用開始から35年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。白山運動公園（全コート）は、コート面の劣化、フェンスの高さ、照明設備の劣化などが課題となっています。

(3) 多目的広場（グラウンド）

設置場所	概要
白山運動公園	野球場2面（又はサッカーコート1面）、グラウンド舗装：クレー、照明設備6基（サッカーコート規格）
信濃川河川公園	サッカーコート1面、グラウンド舗装：芝生
千谷運動公園	サッカーコート1面、グラウンド舗装：クレー

多目的広場（グラウンド）は主に野球とサッカーで利用されており、小サイズの少年サッカーや学童野球などにも設定を変えられます。利用状況は、千谷運動公園の利用率が他施設に比べ低く、利用者数も減少傾向にあります。

信濃川河川公園は、市内で唯一サッカー大会を開催できる天然芝グラウンドとして供用していますが、天然芝を整備した平成24年度以降、大規模な浸水被害が2度発生し、使用中止期間が長期に及ぶとともに、堆積土撤去や芝の張替などの災害復旧工事に多額の費用を要しました。このため災害リスクの低い地域における施設整備が検討課題となっています。

(4) 陸上競技場

設置場所	概要
白山運動公園	クレートラック：1周400m(8コース)、芝生フィールド(一部全天候)、大会運営棟、付設クロスカントリーコース(最長3.2km)

陸上競技場は、競技人口減少に伴う大会の再編成により公認大会の実施が減少したことなどから、令和3年9月28日付で日本陸上連盟公認(4種競技場)を廃止しました。今後は、主に練習場として維持管理していきます。また陸上競技場に付設するクロスカントリーコースは、安全性を高めるためのコース改良や、築40年以上を経過した格納庫兼トイレの改修などが急がれています。

(5) シャンツェ

設置場所	概要
白山運動公園	40m級シャンツェ、照明設備7基、審判棟

シャンツェは、スキージャンプの競技人口の減少とともに利用者数が減少しています。そのため、現状は大会に合わせて助走路などの整備を行っており、冬季間を通じて常時使用できる状態を管理することは困難な状況です。

また、供用開始から30年以上が経過した施設の老朽化などにより、施設の補修や設備更新のための維持管理費用の増加が懸念されており、県内の他施設との共同利用などを検討する必要があります。

(6) クロスカントリースキーコース

設置場所	概要
白山運動公園	クロスカントリースキーコース(最長3.0km)、ナイター照明利用可(多目的広場照明設備)

クロスカントリースキーコースは冬季間を通じてコース整備を行い、団体や個人の練習での利用となっています。市内の優秀競技者(トップアスリート及びジュニアアスリート)はクロスカントリースキー種目で高い割合を占めており、起伏の富んだ地形を利用したコースは基礎体力形成における重要拠点となっています。また、幅広い年代での個人利用や市民大会の参加者も増加傾向です。

今後は、さらに安全性を高めるとともに、競技力の向上や健康づくりのために利用しやすいコース改良を検討する必要があります。

(7) グリーンヒル白山

設置場所	概要
白山運動公園	RC造2階建、1階：事務室・ロビー・小会議室・体育室・シャワー室、2階：大会議室・和室・研修室

グリーンヒル白山は、平成15年度から白山運動公園施設の一部として供用しており、利用者の受付のほか大会時の打合せ会議やスタッフルームとして使用されており、大会の運営において欠かせない施設となっています。主に体育室、会議室、和室に分類され、供用開始後の利用者数は比較的安定し推移しています。また、災害時の避難所など、防災拠点としての役割も担っています。

築30年以上を経過した施設の老朽化などにより、施設の補修や設備更新のための維持管理費用の増加が課題となっています。

4 施設整備方針

「1. 策定の背景と目的」と「2. 施設の状況」に記載した内容を踏まえ、各施設の今後の施設整備方針を以下の考え方により定めることとします。

- (1) 本市における人口減少や競技人口の推移のほか、社会的な健康づくりに対する意識の動向などを踏まえ、各施設の規模や役割について検討します。
- (2) 現在の利用状況のほか、使用料収入や維持管理費の推移を踏まえ、各施設の費用対効果を検証し、効率的な施設整備を検討します。
- (3) 防災、救急、地域の自治機能の維持など、スポーツ施設としての機能以外の役割について検討します。
- (4) 各施設の実情に応じ、他自治体との連携協力による施設の相互活用を図り、特色を活かした効果的な施設整備を検討します。